



花大関
孫本

西垣文庫
文庫10
6745
1



文庫10
6745
1

西垣史庫



入道して不替神と号し其先祖ハ
南朝の忠臣小田大納言成家々の
舎弟中納言
成貞々の苗裔
北畠前大納言具教

此は伊勢國教代の國
司より公家の家なれど
武徳盛んはして終つて
小忠勇の者数多あり
子息とた少し依具々と号し
○後井又左衛門のふと人の子あり婦人ハス
と名づけむまめはて八重と名づけむも又女あり
腹ハとも小忠勇ハく英人の字えり久りて八重ハ
母才ハちつ付ハ一家中の善婦と云ふんと云ふ忠教不知



六四三六

後子伝長の小姓兼藤田大介代といふもの
 か八重と深く懇をして

又左といふ入る **木下**
 折は大介代の因國也

那荒子の味を

藤田種彦の六甲

又左の美をきく承ひ死

八重のいは世にいはるは

延引は **藤井**

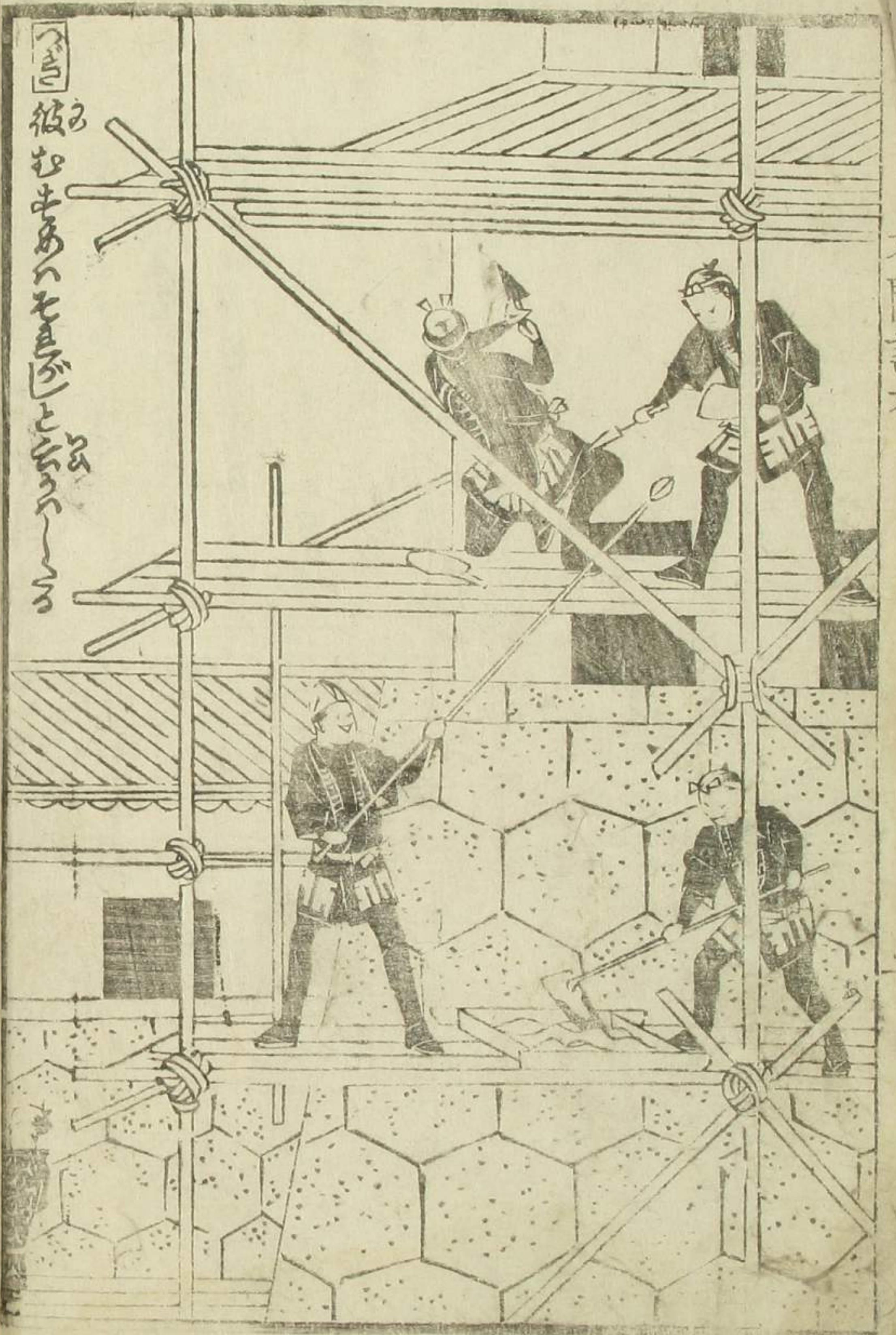
其の中に



多く病を中にあて
 死りはれど大介代
 父の承引は死の又なも
 尚も感は後を命におかす
 其の儀を極めてんをす
 藤田の病を承引
 中へとその疾
 大介代が完ふ
 のり八重が病
 意の故を承引
 死れども大介代の承引
 其の儀を極めてんをす

大千代
 母

りも直ぐはそれ奥入り中ありといふ
 大代もあつていふは且つて何れ
 ちりしが是も様々あつたが外
 子細のあるは其の長あつたは
 等と云ふはそれと云ふは
 ぬのたけは有るは然らば其
 仲多しは縁組と云ふは
 云ふ本下等と云ふは且つて
 おくるはつらふ小狭くも大代入
 の奥女と云ふは其の
 中と云ふは其の
 たるは其の
 じと云ふは其の



へき彼むせありをいふと云ふは

大代もあつて

へき彼むせあり

つぎにわがめごとく 婚嫁そのひたり
ふふ同く家中ふふ

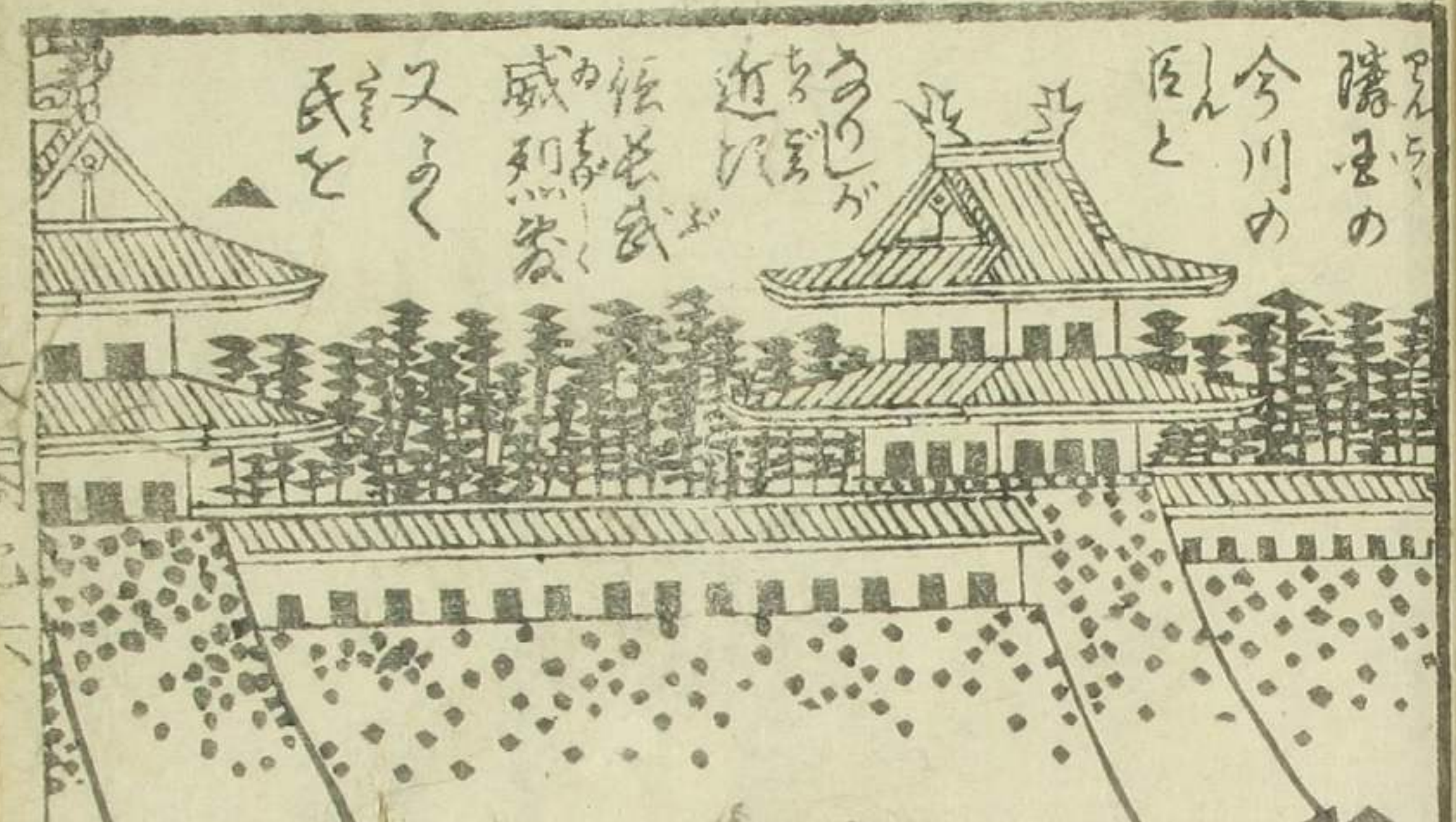
織田信長

九条の
とりのあ
あり父の
の城を
あつら
なる女
とを親
強者
信長の不
興を



大風あつて
樹木を

やぶついで
こころ
は年
なれば
なれば
なれば



今川の
氏と
威烈
近
つるが
つるが
つるが

あつて
尾張の
信長
大徳の
九条の
清洲の
なま
のその
藤吉郎高吉



今奉
今奉
今奉

ついである日本下

君さあ 君さあ
ひきよみか上
さきひかひたろ
み親子のあり
お家一摩素
何うしん飯え
のびのや
あて君と
そろんろ
あくとあり
史のひきごと
城郭のあり

木下藤吉郎



おるまのともあそび小
はなはたは戸紐のな巻の
れ去されの信ともよく名
知りのりとも

おるまのともあそび小

あくとあり

いさう山に

影が今川小

つれ今川の

家長ども

皆海あり

あくとあり

おとせとも

中せとも

そろりの今川の押
月せんあり申あつく
すあり戸粒新なるあ
智勇ともあそび小

山口左馬介



後とは...
あくとあり...
いさう山に...
影が今川小...
つれ今川の...
家長ども...
皆海あり...
あくとあり...
おとせとも...
中せとも...
そろりの今川の押...
月せんあり申あつく...
すあり戸粒新なるあ...
智勇ともあそび小

つらき事ふれえとてとめめられは是の二を束のせめめけを
 筆字の據中ふ入とを後序置おるをさうとてし給が長給の長給と
 渡御ふ給う候長一はじとさればさうなる給置おるお世をの長給と
 偽る紙をまをさるその文のやうい。き致おるのさうさうひそかに
 家いさうとさうとていふ山にやそのめめめめ今川さうのさうさうに
 中形あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 なるさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 密出さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 大あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とれは二通渡御一をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 本下さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 下級ふれえ



▲付あさうと
 あり
 あれが
 かさるるぬさう
 さうさうさうさう

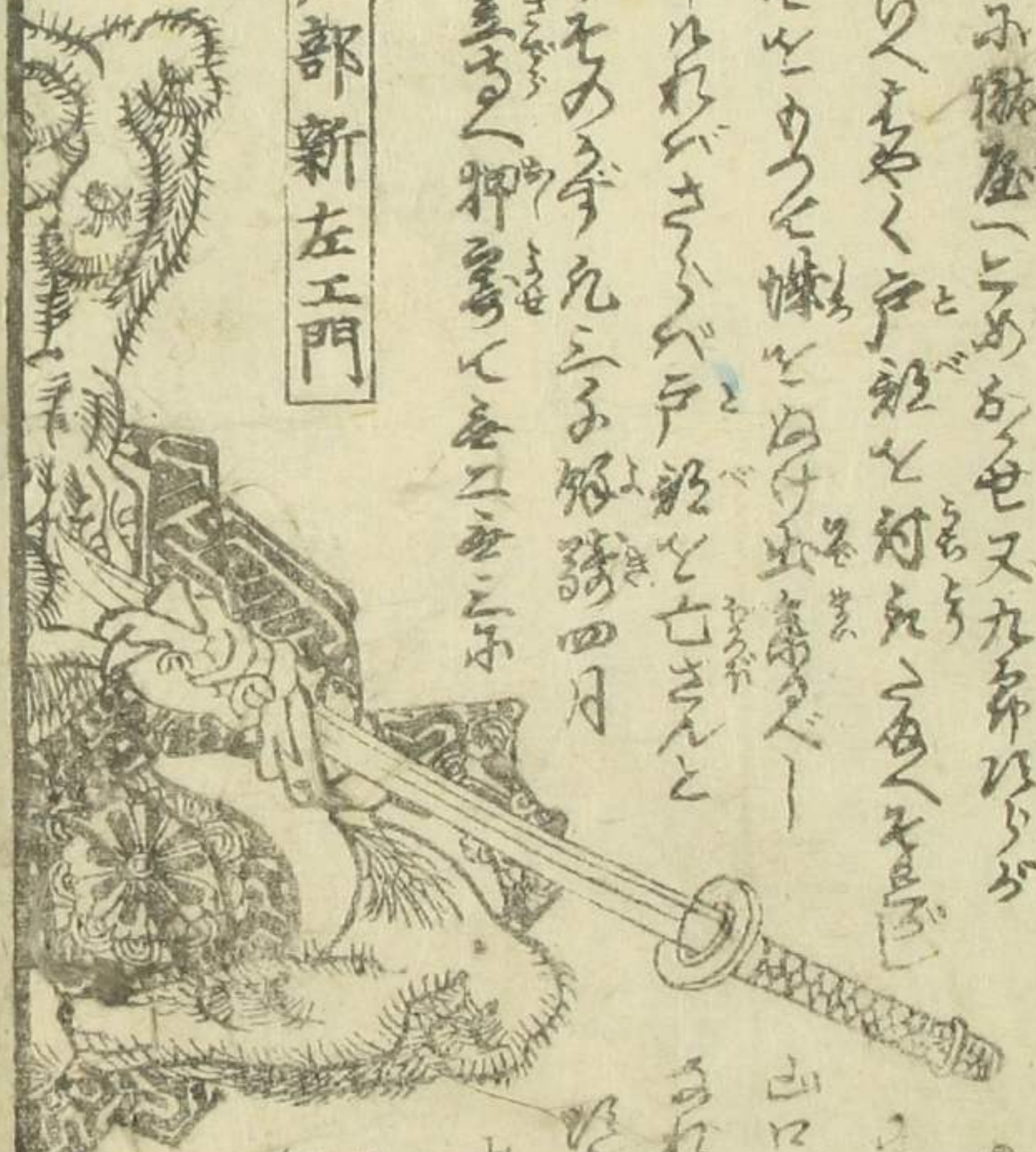
鳴海ふつろ
 女のお鏡
 とつたふ
 ことしなうさ
 あり對面さう
 ながさうさうさう
 のさうさうさうさう
 ぼあせとさうさう
 かのり候長一かくと云上り



山口の使

山口のやうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 きてのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 云と一雲霧とつたてさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 養えおせめとへさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

鳴鶴おわりのけり九つはく一甲のぬ九多はく一と道々のこと
 あらび木下がそとをひめて日うらば夢傳其終くとそとのこと
 と父のりえつけ甲の字を途中をせめ一うたるるかかつくひを
 のり捕はともお捕屋一とめを色又九多はくが
 おせをとり一りえをく戸を対れ之を色
 へあそりもをせをりの味とぬけ出さる一
 とあそりつて一ればさくバ戸を亡さんと
 手せのせあつめその子九子孫孫四月
 十日のあつれ美と一押寄てを二を二
 せめころ
 戸部新左工門
 あまのとき
 羽取あつと
 山口あつてかくの
 ちねは後長た
 け事を終へた
 とありと木下
 あ一とあつれ
 と幾さいたる
 かつくと
 とあつと



同家中の
 山はあつと
 けりあつと
 お新左工門
 後長おつと
 山はあつと
 うけとあつと
 の一は新左工門の歌息一今川とあつと
 主人の城はあつと
 自殺はてを死てつと山は新左工門の首とあつと
 義元の突撃おそと
 後お又あつと
 ちねは後長た
 とありと木下
 あ一とあつれ
 と幾さいたる
 かつくと
 とあつと
 山口あつてかくの
 ちねは後長た
 け事を終へた
 とありと木下
 あ一とあつれ
 と幾さいたる
 かつくと
 とあつと



つぎはと記述せしめて備後守のさうりやあはれり
 小よりぬ親子いふ事さるむと
 公ども

山口九郎次郎

りくろぬそろ
 りよくやうた
 ころろろろ
 〇愛小保勢の
 國司小南常の
 大納言具敷入及
 うして尾張とさゆ
 入ると年いじさ
 ねひひれどまふ事うと



▲うんぎあふん
 浪浪あわれと中
 乃れ具敷入及
 きにあり死
 ことかふ事さるむ
 つまのそとを止
 の外色様
 勢ひさくとも
 つまのいり
 さふららん
 久ふもあふ
 りくろぬそろ
 まふことん

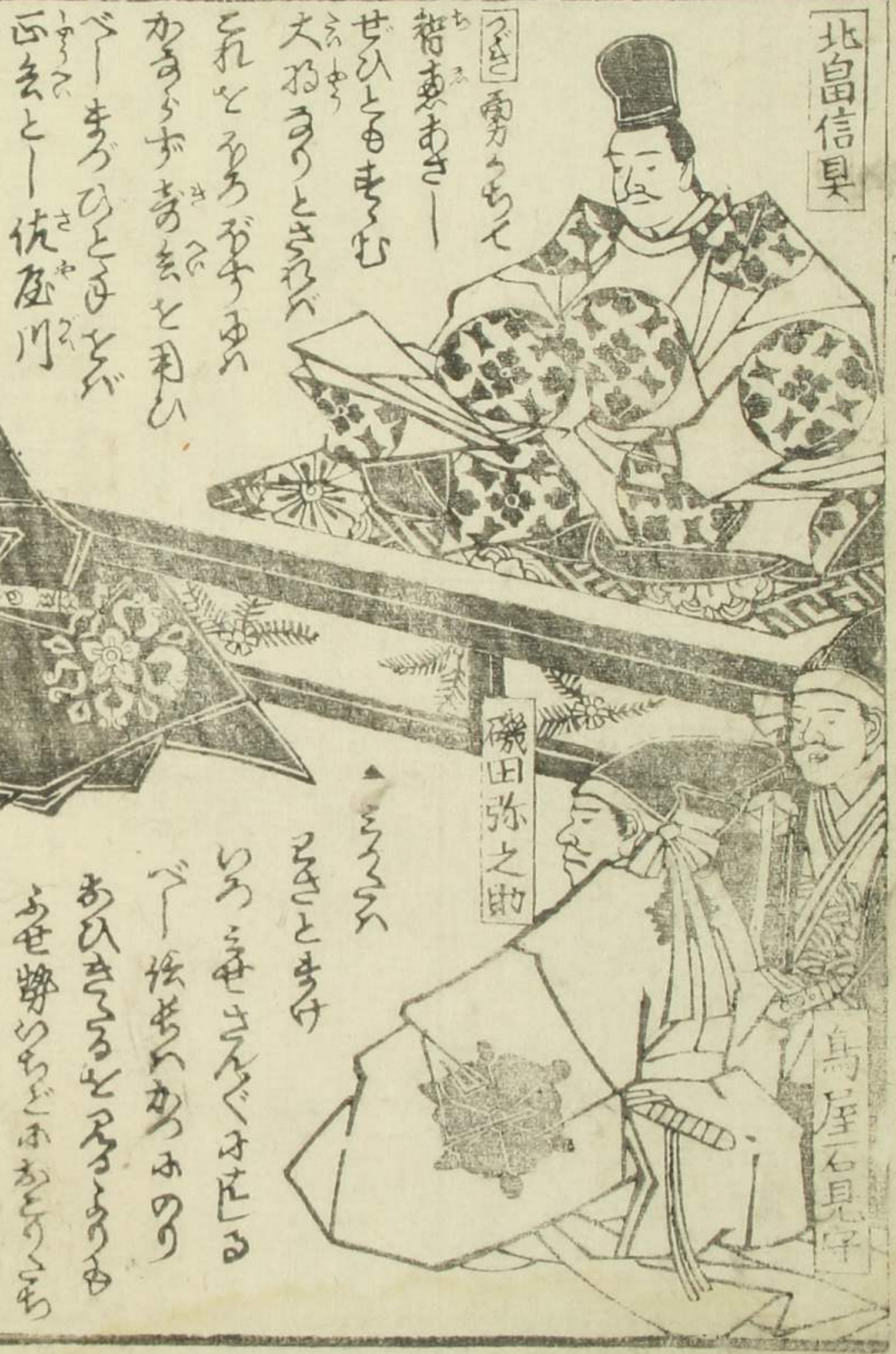
あつちささる去りど小藏田信長
 かく威勢さるふより尾張一國
 小付のれ具敷入及いりてさる
 勢さる一と一子中お具敷入
 その所築下のとらさ
 ありぬ尾張とせむ
 軍評定さるくあふ
 ぞんせ中さるくと作小
 家老歳中死説書ま
 出て中さるは後長
 強敵あり小勢あり
 とてあふさるさるさるさるさる
 大河ありさるさるさるさるさる

山口左馬介



とめざしせめ
 いさめさ
 百たさ
 ひとく
 つら
 けりや
 ありやと
 さひあふ
 志屋の
 在りん
 後長

北畠信具



つと 勇方ちあて
智恵あき

せひともまむむ
大ねまのとなむ
これとちろちすあ
かきうすあまを利ひ
べーまろひとまを
西まとい 佐屋川

磯田弥之助

鳥屋石見守

りろまさんぐはせ
べー佐屋川あまのり
あひまるとるまのり
あせ勢のちとあまのり

森本飛騨守



まてあーのどて
せめり
まきの死
あひとをせ
ま
佐長
さきまのまね
らへまーて川を
まこまへまこあ
今一トをまま
あてさや川の
いじあーに
まのあくまを佐屋川とま

安保若狭守

らじろまのせあま
うのあまのま
七のあまのま
つんでせあま
ままのま
佐長
のあまのり
あまのま
のあま
あま
ま
ま

大田記

つきののまきへ入た
左中ねあちねふ

まろまひ
ろみぎ

木下藤吉郎高吉

あつともあつと
園中のえせのと

かりめあうりー

長大ねハ新園司

佐奥あをん五子余

左右の伏せのハあつ

まろくあつ勢二万子余勢

伊勢の玉木造りの此所とのぞ

尾張のゆへ進奈あ



早稲田大学図書館

011688985821